

本買ふは業ごいふにも似たり翳雲

藤田湘子

私は、仕事帰りに本屋によるか、喫茶店で音楽を聴くかの毎日であった。行きつけの書店は、どこにどの系列の本があるか分かつているので、その日の気分で動線が決まる。数ある背表紙の中からシグナルを感じて手に取れば、発行日がまだ未来の、出たばかりの本だったりすることもある。出会ってしまったからには連れて帰らなければ心が穏やかではない。本は鮮度がいのち、ナマモノなのである。こうして積ん読、乱読が増えてゆく。

最近はおつぱら図書館の恩恵に与っている。しかし、「本買ふ」よろこびからは遠い。やはり身銭を切らなければ樂しみは手にはいらぬのかもしれない。

春の暮死んでから読む本探す 藤田湘子

2004年 (116作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京